

V ま と め

1 前方後方形周溝墓について

本遺構は、元総社蒼海遺跡群(38)15区の北側、W-3号溝跡として名称をつけ調査した。このW-3号溝跡は浅間C軽石を多く含む緻密な黒色土が堆積していることやくびれ部の周溝と想定される曲線部があること、底面から4世紀代の甕形土器が出土したことから、前方後方形周溝墓の周溝の一部であると考えた。W-3号溝跡は周溝の北西部に当たると推定し、同じような規模の周溝を持つ前橋市富士見町原之郷の下庄司東原遺跡1号方形周溝墓を参考に復元してみるとFig.113のようになり、方台部の全長18.00m、後方部最大幅10.00m、前方部最大幅6.00m、くびれ部幅3.00mとなる。周溝を含めた全体の規模は東西19.00m、南北22.00mとなる。

前方後方形周溝墓は、群馬県内では下佐野Ⅰ遺跡、鈴ノ宮遺跡、元島名遺跡、熊野堂Ⅱ遺跡、矢中村東遺跡(以上、高崎市)、堀ノ内遺跡(藤岡市)、伊勢崎・東流通団地遺跡(伊勢崎市)、屋敷内B遺跡(太田市)、下郷遺跡

(玉村町)などで、前橋市内では、堤東遺跡(荒子町)、中山A遺跡、東原B遺跡(以上、下大屋町)、富田高石遺跡(富田町)、内堀遺跡群上縄引遺跡(西大室町)、下庄司東原遺跡(富士見町原之郷)などで確認されている。前橋市内で確認された主な前方後方形周溝墓の規模はTab.68のとおりである。多くの前方後方形周溝墓の周溝外形が不整楕円形であるのに対して、下庄司東原遺跡1号周溝墓や東原B遺跡2号周溝墓は周溝外形にはくびれ部が存在しており、周溝外形が前方後方形になっている堀ノ内遺跡CK-2号に近い形状となっている。

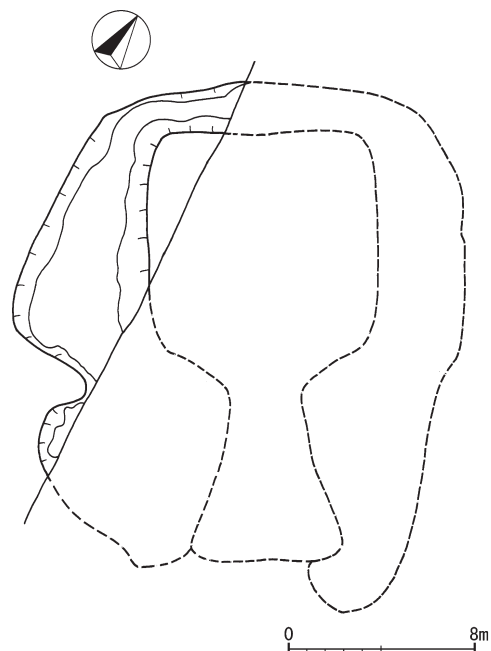


Fig.113 前方後方形周溝墓模式図

Tab.68 前橋市内の主な前方後方形周溝墓の規模

	方台部(m)				周溝を含めた規模(m)	
	全長	後方部幅	前方部幅	くびれ部幅	長軸長	短軸長
本例	(18.00)	(10.00)	(6.00)	(3.00)	(22.00)	(19.00)
堤東2号周溝墓	25.00	14.50	6.50	3.30	30.00	24.00
中山A1号周溝墓	15.00	8.00	4.00	2.00	19.40	15.10
東原B1号周溝墓	16.00	10.00	4.50	2.50	20.50	17.00
東原B2号周溝墓	16.00	9.80	6.20	2.50	18.00	18.00
東原B14号周溝墓	12.60	8.60	3.10	2.80	18.00	15.60
東原B16号周溝墓	11.90	8.60	2.90	1.30	17.60	16.20
富田高石3号周溝墓	23.40	13.20	5.40	3.67	26.66	(18.00)
下庄司東原1号周溝墓	18.80	9.60	5.50	2.90	20.70	14.40